

菊池氏千年の都



御所通りの町並み

町並みについて

- ◆ 菊池市隈府地区は、14世紀中頃菊池一族の菊池武政が菊之城から守山城(現在の菊池神社)に本拠地を移してから本格的に町づくりが行われた地域で、当時は肥後国の政治、文化の中心地として栄えました。
- ◆ 菊池神社へと続く一直線の道、御所通り沿いには、南北朝期に征西将軍の懐良親王が手植えたとされる將軍木(県天然記念物)や、菊池松囃子能場(県重要民俗文化財)があり、菊池一族の隆盛ぶりを今に伝えています。
- ◆ また、隣接して国登録有形文化財で洋風の意匠を巧みに取り入れた高木医院と和風建築の旧松倉家住宅が並んでいます。同地区内には、菊の城酒造施設群や隈田本店(醤油)なども点在しており、近世から近現代にかけて菊池の繁栄を支えた商人町の歴史を垣間見ることができます。



町並みの中心(核)となる伝統的建造物

 旧松倉家住宅

- ◆ 昭和7年に建築された木造2階建の元料亭で、座敷にある椽、黒柿などの銘木を用いた床柱や繊細な細工を施した意匠欄間等が特長となっており、昭和初期の和風建築の精髓をみることができる建造物です。
- ◆ 隣接する菊池松囃子能場とともに、菊池氏全盛期から昭和初期までの時代を超えた歴史的景観を形成しています。



旧松倉家住宅

同地区内の御所通りは景観形成住民協定が結ばれるなど、地域住民により伝統の継承と町並み整備が進められています。また、立町をはじめ商店街一帯では軽トラ朝市が開催されて、毎回賑わいをみせています。同地区では、官民一体となった取組みにより個性豊かな町並みの維持・保存に努め、菊池一族によって育まれた歴史や文化を将来に引き継いでいます。